

中心力場と角運動量保存則

樋口さぶろお

龍谷大学工学部数理情報学科

力学 L04(2010-05-12 Wed)

今日の目標

- ① 中心力場って何？
- ② ケプラーの第1法則って何？
- ③ ケプラーの第2法則って何？



<http://hig3.net>

QuizL03 略解

$$\textcircled{1} \quad \mathbf{p}(t) = m \frac{d\mathbf{r}}{dt}(t) = (-9 \sin t, 6 \cos t, 3 \cos t).$$

$$\textcircled{2} \quad \mathbf{L}(t) = \mathbf{r}(t) \times \mathbf{p}(t) = (0, -9, 18).$$

$$\textcircled{3} \quad \mathbf{N}(t) = \frac{d\mathbf{L}}{dt}(t) = \mathbf{0}.$$

別解 (面倒) $\mathbf{F}(t) = m \frac{d^2\mathbf{r}}{dt^2}(t) = (-9 \cos t, -6 \sin t, -3 \sin t).$

$\mathbf{N}(t) = \mathbf{r}(t) \times \mathbf{F}(t) = \cdots = \mathbf{0}$ (\mathbf{r} と \mathbf{F} が平行であることからわかる).

ベクトルを太字や矢印で区別していないものは減点しました.

ひとつの問題・計算の中では、ベクトルは縦ベクトルか横ベクトルかを統一しよう. 問題文にあわせて答えるのが礼儀.

前回のまとめみたいな？

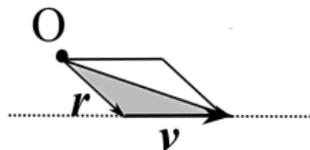
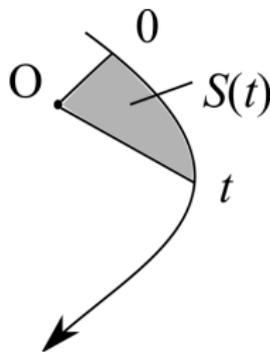
	直線	回転
勢い	運動量 $\mathbf{p} = m \frac{d\mathbf{r}}{dt}$	角運動量 $\mathbf{L} = \mathbf{r} \times \mathbf{p}$
大きさ	$ \mathbf{p} $	$ \mathbf{L} $
向き	\mathbf{p}	\mathbf{L} に進む右ねじの回る向き
はたらき	力 \mathbf{F}	力のモーメント $\mathbf{N} = \mathbf{r} \times \mathbf{F}$
微分方程式	$\frac{d\mathbf{p}}{dt} = \mathbf{F}$	$\frac{d\mathbf{L}}{dt} = \mathbf{N}$

面積速度

面積速度

$$= \frac{dS}{dt}(t)$$

= 三角形の面積



こんな場合の角運動量は？

質量 m .

外積を使った計算と面積速度の考えの両方で、 $|L|$ を求めてみよう.

半径 a 周期 T の等速円運動

半径 r 角速度 ω の等速円運動

$\mathbf{r}(t) = (vt, a, 0)$

力の場 (ベクトル場の例)

位置 $\mathbf{r} = (x, y, z)$ においた物体が力 $\mathbf{F}(\mathbf{r})$ を受けるとき, ベクトル場

$$\mathbf{F}(\mathbf{r}) = (F_x(x, y, z), F_y(x, y, z), F_z(x, y, z))$$

を **力(の)場** という.

ベクトル解析

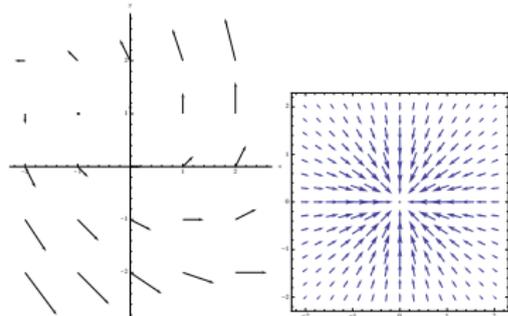
例 1: へんな力の場 $\mathbf{F}(\mathbf{r}) = (-y, x^2 + y, 3z)$.

例 2: 3次元調和振動子 $\mathbf{F}(\mathbf{r}) = (-kx, -ky, -kz) = -k\mathbf{r}$. ($k > 0$)

例 3: 重力場あとで詳しくやります.

$$\mathbf{F}(\mathbf{r}) = \left(-\frac{GMmx}{(x^2+y^2+z^2)^{3/2}}, -\frac{GMmy}{(x^2+y^2+z^2)^{3/2}}, -\frac{GMmz}{(x^2+y^2+z^2)^{3/2}} \right).$$

ベクトル場の例



例題 1

質量 $m = 2$ の物体が, 力の場 $\mathbf{F}(\mathbf{r})$, 初期条件 $\mathbf{r}(0) = (3, 0, 0)$, $\frac{d\mathbf{r}}{dt}(0) = (0, 2, 1)$ のもとで運動している. 時刻 t における位置 $\mathbf{r}(t)$ を求めよう. ただし, $\mathbf{F}(\mathbf{r}) = (-2x, -2y, -2z)$.

中心力場

中心力場

力(力の場) $\mathbf{F}(\mathbf{r})$ が中心力(中心力場) であるとは 高木 I §6.1

- 向きが \mathbf{r} に平行である: $\mathbf{F} \parallel \mathbf{r}$ つまり $\mathbf{F} \times \mathbf{r} = \mathbf{0}$.
- 大きさ $|\mathbf{F}(\mathbf{r})|$ が $r = |\mathbf{r}| = \sqrt{x^2 + y^2 + z^2}$ だけの関数である (向きにはよらない): $|\mathbf{F}(\mathbf{r})| = (\pm 1) \times f(r)$.

中心力場の例

例 1

 $\mathbf{F}(\mathbf{r}) = -3r^2\mathbf{r}$ は中心力場

- $-3r^2\mathbf{r} \times \mathbf{r} = \mathbf{0}$
- $|-3r^2\mathbf{r}| = 3r^2|\mathbf{r}| = 3r^3$.

例 2 $\mathbf{F}(\mathbf{r}) = (-y, x, z)$ は中心力場でない。

- × $\mathbf{F}(\mathbf{r}) \times \mathbf{r} = (-y, x, z) \times (x, y, z) \neq (0, 0, 0)$.
- $|\mathbf{F}(\mathbf{r})| = \sqrt{(-y)^2 + x^2 + z^2} = r$.

例 3 $\mathbf{F}(\mathbf{r}) = -x^2(x, y, z)$ は中心力場でない。

- $\mathbf{F}(\mathbf{r}) \times \mathbf{r} = -x^2(x, y, z) \times (x, y, z) = (0, 0, 0)$.
- × $|\mathbf{F}(\mathbf{r})| = -x^2(x^2 + y^2 + z^2)^{1/2} \neq f(r)$.

例 4 さっきのへんな力も中心力場でない。

中心力場の一般的な形

$$\mathbf{F}(\mathbf{r}) = f(r) \frac{\mathbf{r}}{r} = |f(r)| (\pm 1) \frac{\mathbf{r}}{r}$$

$|f(r)|$: 力の大きさ.

$f(r) > 0$ なら (せきりよく), $f(r) < 0$ なら

$(\pm 1) \frac{\mathbf{r}}{r}$: 力の向きを表す単位ベクトル

復習 高木 | p.119

物理数学 I

ベクトル \mathbf{A} と同じ向きの単位ベクトル (長さ 1 のベクトル) は $\frac{\mathbf{A}}{|\mathbf{A}|}$.

なぜなら $\left| \frac{\mathbf{A}}{|\mathbf{A}|} \right| = \frac{1}{|\mathbf{A}|} |\mathbf{A}| = 1$.

中心力の例: 重力, 静電力, ...

中心力場の例:重力場

高木 | p.97

原点 $O(0, 0, 0)$ に質量 M の物体が静止しているとき、位置 $\mathbf{r} = (x, y, z)$ にある質量 m の物体が受ける重力 (万有引力) は

① 向きは原点向き (引力)

② 大きさは m, M に比例, $r = |\mathbf{r}|$ の 2 乗に反比例 () と

いう) $\frac{GMm}{r^2}$. 比例定数 $G = 6.673 \times 10^{-11} \text{m}^3/\text{kg}/\text{s}^2$ は万有引力定数.

見るからに中心力場

数式で書いてみよう

原点向き単位ベクトル $-\frac{\mathbf{r}}{r}$.

大きさ $\frac{GMm}{|\mathbf{r}|^2}$.

$$\mathbf{F}(\mathbf{r}) = \frac{GMm}{r^2} \times \left(-\frac{\mathbf{r}}{r} \right) = -\frac{GMm}{x^2 + y^2 + z^2} \frac{1}{\sqrt{x^2 + y^2 + z^2}} (x, y, z)$$

ケプラーの第2法則 (中心力場の性質)

中心力場では $\frac{dL}{dt} = N = \mathbf{r} \times \mathbf{F}(\mathbf{r}) \stackrel{!}{=} \mathbf{0}$.

まとめみたいなの？

	直線	回転
微分方程式	$\frac{d\mathbf{p}}{dt} = \mathbf{F}$	$\frac{dL}{dt} = N$
保存則	$\mathbf{F} = \mathbf{0}$ のとき p 一定 (運動量保存則=ニュートンの運動の第一法則)	$N = \mathbf{0}$ のとき L 一定 (角運動量保存則)

ケプラーの第2法則=面積速度一定の法則

高木 | p.124,p.129,p.130 中心力場のもとで運動する物体

の

ケプラーの第2法則の応用

Example 1

- ① ハレー彗星の軌道は $a_A = 5.2 \times 10^{12} \text{m}$, $a_P = 8.8 \times 10^{10} \text{m}$. 速さは、どちらにいるときが何倍大きい?
- ② 上の問で, 10^{11}m のときは?
- ③ 地球は半径 $a_E = 1.5 \times 10^{11} \text{m}$, 木星は半径 $a_J = 7.8 \times 10^{11} \text{m}$ の円軌道. どちらの速さが何倍大きい?

ケプラーの第1法則 (中心力場の性質)

ケプラーの第1法則の半分

中心力場のもとでの物体の運動は原点を含み L に垂直な一平面内に限られる。

$$L \cdot r = \boxed{} = \boxed{} = 0.$$

$L_x x + L_y y + L_z z$ は cyclic に回しても同じ値

物理数学 I

$L_x x + L_y y + L_z z = 0$ は平面の方程式.

直観的にもわかる.

$L = 0$ のときは?

Quiz 1

① 次の力の場は中心力場か？

① $F(\mathbf{r}) = (x^3, y^3, z^3)$

② $F(\mathbf{r}) = (x^3, y^3, z^3) + (xy^2 + xz^2, x^2y + yz^2, x^2z + y^2z).$

② 次の力の場 $F(\mathbf{r})$ を x, y, z の式で書こう: ‘大きさが r に反比例する斥力である中心力場’

③ 中心力場のもとで質量 $m = 3$ の物体が運動している. 初期条件は $\mathbf{r}(0) = (1, 2, 3), \frac{d\mathbf{r}}{dt}(0) = (4, 5, 6)$ だった. 物体の軌跡を含む平面の式を求めよう.

教科書のお奨め問題

高木 I 演習問題 [3](p.137)

数値計算法演習の連絡今週こそイヤフォンもって来て～

ひっそりとプチテスト計画 2010-06-09 水 3. 持込無し.

テキスト入荷!

高木, 力学 (II), 裳華房 (2001) より引用 後半で使うので買っておいてね.